

第五二四號

大正三年三月

關東都督府陸軍參謀部

巴爾虎

一名呼倫貝爾

巴爾虎

一名呼倫貝爾

一	由來	一
二	位置及面積	一
三	地勢	二
四	河川及湖沼	四
五	自然，富源	〇
六	住民	五
七	歷史，概要	三
八	行政組織	九
九	國境監視	六
十	驛遞法務	九
十一	警察	五
十二	種族	五
十三	宗教	一
十四	產業	一
十五	貿易	六
十六	清國，主權	七
十七	巴爾虎，獨立	七

巴爾虎一名呼倫貝爾

後黑龍江軍國ハラノ中佐著

一 由来

巴爾虎ト稱スルハ興安嶺以西黑龍江省ノ一部
即チ呼倫及貝爾西湖ニ出入スル河川ノ流域ヲ
指ス蓋シ巴爾虎トハ蒙古語異教徒ノ義ニシテ
原來同地方ニ居住スル土民カシヤマニ教ヲ奉
スル為ノ喇嘛教徒タル喀爾喀人カ輕侮シテ
彼等ヲ呼フ名稱ナリシカ延テ彼等異教徒ノ居
住スル地方ヲモバ爾虎ト稱スルニ至レリ而シ
テ支那人ハ呼倫及貝爾西湖ノ名ヲ取リテ呼倫

貝爾ト稱セリ

二 位置及面積

巴爾虎ハ其ノ西北境塔爾巴幹達呼山ヨリ起リ
其ノ東方阿巴噶圖山ニ至リ夫ヨリ額爾古納河
ニ沿ヒテ下リ什勒噶河トノ合流點ニ達シ之ヨ
リ興安嶺ニ沿ヒ南ニ下リ索岳爾吉山ニ至リ次
テ諾納墨爾根河及喀爾喀河ニ依リテ貝爾湖ニ
至リ同湖ヲ中斷シ假設線ニ依リテ克魯倫河岸
ノルゲンハル山ニ至リ之ヨリ假設線ヲ以テ國境上
ノ塔爾巴幹達呼山ニ至ル線内ニ包括セラレ以

上ノ境界線ヲ以テ北ハ露國ニ隣ニ東ハ黑龍江
省ニ境シ南及西ハ喀爾喀ニ接ス
塔爾巴幹達呼山ヨリ阿巴噶圖山ニ至ル露國ト
ノ境界線ハ千七百二十七年「パリイ」條約ノ規
定スル所ニシテ爾後此境界線ハ北方ニ漸進シ
テ次第ニ露領ヲ蠶食スルニ至リシカハ茲ニ兩
國々境ヲ正確ニ決定スルノ必要起リ劃界委員
ノ任命ヲ見露國ハ蠶食セラレタル境土ヲ恢復
シ其ノ代リニ他ノ繁華地ニ於テ清國ニ好意的
讓歩ヲナシ本境界ノ劃定ヲ了レリ

二

巴爾虎ノ面積ハ約十五萬平方露里アリ清國地
誌ニ據レハ長サ千四十浬幅八百浬ト稱ス

三 地勢

巴爾虎ノ地勢ハ高原ヲナシ東ニハ興安嶺山脈
アリテ殊ニ高低ノ變化多ク又西ニハ克魯倫河
及呼倫湖ニ近ク肯特山脈アリ肯特山脈ニハ克
魯倫河畔ニ聳ユル阿勒坦額墨爾山アリ其ノ形
狀ノ美ト溪谷ニ關スル傳説及歴史的紀念トニ
依リテ巴爾虎人間ニ著名ナリ阿勒坦額墨爾ハ
蒙古語「黄金ノ鞍」義ナルヲ以テ恐クハ山形ヨ

リ出テシ名稱ナルヘシト雖モ土人間ノ傳説ニ據
ルハ昔時成吉思汗軍ヲ率オテ此谷ニ崩營セシ
コトアリシカ此山形ヲ賞シ山麓ニ已カ黄金ノ
斂ヲ卸シ之ヲ枕トシテ此地ニ崩セリ南來此山ヲ
ヲ名ケテ阿勒坦額爾古納ト呼フニ至レリト云フ
并六百九十年ノ交津噶爾(今ノ伊犁)ノ噶爾丹軍
ヲ此谷ニ駐ノ之ヨリ滿洲ニ向テ進撃ヲ企テタ
ルコトアリ
巴爾虎人ノ言ニ據レハ肯特山脈中嘗テ火山ヲ
見タルコトアリ今猶ホ時々其ノ兆候ヲ見ルト

三

云ヘリ千九百六年巴爾虎人ハ此等鬼火山ノ一
ナル額爾得尼山ノ噴火ヲ期待シタリシカ單ニ
輕微ノ地震ヲ見タルノミニテ終レリ
巴爾虎州内ニハ以上ノ外猶ホ獨立ノ山脈アリ即
チ北方ニ在テハ額爾古納河ノ附近ニ「ゲケルデ
」山アリ噴剛停車場附近ニ「バイソツアガ」山
アリ南方ニ在テハ呼倫湖ト貝爾湖トノ間ニ都
蘭哈山(別名「ボクド」)アリ其ノ他高原中ニハ沙丘
ノ起伏アリ呼倫湖ヨリ赫勒洪德、完工、海拉爾等
ノ諸驛ニ至ル間ニ最モ多シ

四 河川及湖沼

上記ノ沙丘ノ間及其ノ南方ニハ塩及膏達ヲ含
有スル池沼多ク又此方面ニハ地上ニ塩ヲ吹出
シ居ル所多シ

呼伦貝爾管内ニ於ケル灌溉ノ源ヲナスモノハ
呼伦及貝爾ノ兩湖系ナリ

貝爾湖ハ州ノ南端ニ在リ其ノ一半ハ隣州喀爾
喀ニ屬ス長サ三十露里幅十八露里淡水ニシテ
透明ナリ、湖岸ハ沙質ニシテ新崖ヲナス而シ
テ水面上ニ於ケル岸ノ傾斜ハ甚タシカラサレ

四

トモ水線下ニ在テハ四十度乃至四十五度ノ傾
斜ヲ以テ下向ス、土人ノ言ニ依レハ水深ハ十
五サビシニ達ス而シテ湖上ニハ船ナキ故
ニ此言ノ真否ヲ確ムルニ由ナシト雖ニ暴風時
ニ於ケル浪ノ高キニ依リテ見レハ水深ノ淺オ
ラサルヲ證スルニ足ル

喀爾喀河ハ源ヲ興安嶺ニ發シテ西流シ幾多ノ
朝流ヲ合セテ貝爾湖ニ注ク朝流ノ至ナルモノ
ハアンバホルフン河、イラン、カイハン河、グルフ
ン河、ガルチヤ、バルク上河、ゴルム河、呼伦、蘇、高河

等トス此等ノ朝流中ニハ温泉ヲ湧出スルモノ
アリ蒙古人ハ此温泉ヲ利用シテ諸病ヲ治癒ス
而シテ浴槽ハ概シテ自然石中ニ設ケラル
喀爾喀河ノ河谷ハ植物ニ富ム即チ興安嶺ノ斜面
ニ矮小ノ針葉樹林アリ河谷ノ沙山上ニモ亦同様
ノ樹林ヲ見ル興安嶺ノ支脈ヲ離ルル附近ノ河
谷ニハ闊葉樹林アリ又河ノ兩岸及中洲ニハ柳
榆樺櫟等生長シ其ノ他野生ノ林檎梨實櫻バ
ルジエウニシ木莓ノ類アリ
喀爾喀河ハ春季氾濫シ夏季ハ減水シテ殆ト到
ル所徒涉シ得河水ハ河底ヨリ湧出スルカ故ニ
清澈ニシテ冷ク且ツ水流急ナリ
烏爾順河ハ源ヲ貝爾湖ニ發シ北流約百五十露
里途中ニ於テ烏蘭諾爾ノ水ヲ合セテ呼倫湖ニ
注ク河ノ兩岸殆ト樹林ヲ見ス
呼倫湖ハ札賴諾爾或ハ達賴諾爾ト呼フ(蒙古語ハ
湖ニ云)周圍ハ濕地ニシテ北部ノ濕地ニハ灌木密
生ス附近ノ地形ヲ按スルニ本湖ノ兩岸ハ往時
肯特山ノ支脈迄達セシナルヘク又北及西ニ在
テハ現存スル沙溝ノ邊ニ及ヒシヤ必セリ何ト

五

ナレハ此等ノ沙溝ニハ水ナキニ関ラス多クノ
貝殻及其ノ破片ヲ發見シ得レハナリ而シテ此
湖ノ縮小シタル原因ハ往昔此湖ニ流入セシ海
拉尔河カ其ノ流經ヲ北方ニ轉シテ額爾古訥河
ニ注クニ至リシニ因ルモノニシテ此湖面ノ變
化ハ延テ僞人ノ所謂「ムートヌイ、プリト」之河（滿
洲）ニ及ヒタリ
海拉尔河河床變更ノコトハ現存スル舊河床ニ
依リテ判斷スルコトヲ得ヘク而シテ此變更ハ
十九世紀ノ前半期ニ於テ行ハレタルモノノ如
シ即チ千六百七十五年西伯利及巴爾虎ヲ通過

六

シテ北京ニ赴ケル露國使節「コライ、スパフ」リ
「ノ報告ノ左ノ一節ニ據ルニ當時額爾古訥河
カ源ヲ呼倫湖ニ取リシ事實明カナリ

鄂爾古訥河ハ源ヲ「達賴」ト稱スル大湖（即チ
指ス）ヨリ發シテ北流ス然レトモ未タ何人
モ此河源ヨリ河口ニ至ル迄ヲ踏査セシモ
ノナシ先年哥薩克兵小舟ニ棹シテ此河ヲ
溯リシコトアルモ食糧ノ準備充分ナラサ
リシ爲メ中途ヨリ引返セリ、額爾古訥河
ハ長サニ於テモ幅ニ於テモ將テ深サニ於

テモ大河ニシテ河口ヨリ源ニ至ル迄大船
ヲ通シ得ヘク魚族モ亦湖水ヨリ流出スル
他ノ河川ト同様頗ル多シト云フ、樹林ハ
連頼湖ニ至ル迄唯僅ニ所々ニ後小ノ柳樹
ノ生長スルヲ見ルノミ然レトモ下流部ニ
至レハ兩岸ニ山脉アリテ密林ヲ見建築及
造船ノ用材ヲ産出ス
連頼湖ノ廣サハ幾何アルヤ知ルニ由ナキ
モ「タウリヤ」(今、加爾各答)又「ネルチンスク」ノ哥
薩克族カ貿易ノ為ノ毎年此地方ニ往復シ

七

其ノ都度土人ヨリ聞知セル所ナリト云フ
ヲ聞クニ連頼湖ハ一方ノ岸ヨリ對岸ヲ見
ルコト能ハサル程大ニシテ貝加爾湖ノ如
キスラ猶ホ對岸ヲ望ミ得ラルルニ此湖ニ
在テハ山頂ニ登リ望遠鏡ヲ以テスルモ猶
ホ且ツ對岸ヲ望ミ得スト云フ
水湖ハ貝加爾湖同様大洋ニ接續ス即チ額爾古
訥河ハ源ヲ呼倫湖ニ發シテ黑龍江ニ流入
シ遂ニ大海ニ注ク、湖邊ニハ森林ナク丘
陵ハ何レモ禿山ニシテ蒙古人其ノ間ニ遊

牧ス（土人ノ言ニ據レハ彼等ハ夏季湖邊ニ遊牧スルモノナリ）湖邊ハ遊牧地トシテ頗ル恰好ナリト
索倫族亦此附近ニ住ス、達賴湖ノ對岸ニ
ハ支那ニ屬スル蒙古人ノ居住スルモノアリテ農業ニ從事ス而シテ支那ノ國土ハ實ニ此附近ヨリ始マルモノニシテ支那ニ達スルニハ四週日ヲ要スト云フモ此道路ハ我國人未タ一回モ踏査セルモノナキヲ以テ明カナラス猶ホ達賴湖ニハ大小幾多ノ河川流入スレトモ何處ヨリ發源スルヤヲ知ル能ハス（中略）達賴湖ノ深サノ大ナルコトハ魚族多ク且ツ鯨及海豹等ノ棲息スルニ依リテ察シ得ヘシ、湖中大船ヲ通シ得レトモ巨浪高キ為メ土人ハ遠航セズ又此地方ニハ小舟ノ數スラ少シ、ホルチン（此ノ名ヨリ達賴湖迄ノ間ハ五乃至六日ニテ達スルコトヲ得ヘク此間各種ノ貿易行ハレツツアリ云々）又千八百三年ニ於ケル「バシンドウイシカソンス」氏ノ記錄ニ依レハ此當時海拉爾河ハ既に河床ヲ變更シ達賴湖ニ注クコトナク同湖ノ近

傍ニ於テ額爾古訥河ニ合流スルコトヲ記述シ
アリ

海拉爾河旧河床ハ今猶ホ跡ヲ存ス今其ノ跡ニ
依リテ案スルニ同河ハ現時ノ位置ニ移ル迄漸
次北方ニ其ノ河床ヲ轉シタルコトヲ證ス而シ
テ此河床ノ變轉ハ呼倫湖ノ減水ヲ來スト共ニ
額爾古訥河ノ上流ヲ淺水トナラシメタリ之レ
額爾古訥河ハ從來呼倫湖ヨリ源ヲ發セルモノ
ナリシニ海拉爾河ノ河床變更ト共ニ單ニ海拉
爾河ノ水ヲ以テ源トナスコトナレルカ故ニ

九

シテ之ヲ為ノ呼倫湖ト接續セル額爾古訥河ノ
前身ハ現時露人ノ稱スルムトヌイプロトク
（滿洲）ト化セリ

ムトヌイプロトクハ細長ノ池ヲ集メタル如キ
狀ヲナシ其ノ北端ハ額爾古訥河ニ接シ南端ハ
呼倫湖ニ連ル水量多キ季節ニ於テハ此等ノ
池ハ合シテ河ノ如キ形ヲナシ僅ニ額爾古訥河
ヨリ呼倫湖ノ方向ニ流ルルヲ見ル然レトモ土
人ノ言ニ據レハ時トシテハ及對ニ流ルルコト
モアリト云フ

海拉爾河ハ源ヲ興安嶺ニ發ス朝流ノ主ナルモ
ノハ北^チ敦^{ドン}河^カ庫^ク勒^ル都^ド爾^ル河^カ伊^エ敏^{ミン}河^カ等ナリ而シ
テ此等ノ朝流ニ注ク河ニハ又「子^シン^ンヘ」^子輝^ヒ河^カ
墨爾根^{メルゲン}等アリ州内ノ北部ヲ灌溉スル河ニハ根
河^カ吉^キ拉^ラ林^{リン}河^カ等アリ何レモ興安嶺ニ發シ額爾古
納河ニ注ク

五、自然ノ富源

本州ニ於ケル富源ノ一ハ呼伦及貝爾西湖並ニ
其ノ水系ニ産スル魚族ナリ、魚族ノ多キハ實ニ
驚クヘキモノニシテ就中貝爾湖ノ如キハ暴風

ニ際シ巨浪ノ為ソニ岸上ニ投出サレテ乾枯ス
ル魚類ノ多キヲ見ルヘシ斯ノ如ク魚類ノ多キ
原因ハ大略ニ種ニ區別スルヲ得ヘシ即チ其ノ
一因ハ海拉爾河^カ流經變更ノ結果呼伦及貝爾ノ
西湖ハ其ノ出口ヲ失シテ局部的トナリ魚族ノ
通路ヲ断チシ為ニシテ「ム」ト又「ア」トシノ
如キ呼伦湖ト額爾古納河ヲ連結スルモノナキ
ニ非サレトモ同河ハ水淺ク且ツ夏季渇水スル
コト屢ナルカ故ニ大魚ノ迄ニ至ルモノナシ、
第二因ハ宗教上ノ關係土人カ呼伦及貝爾西湖

並ニ烏爾順河ノ漁獵ヲ禁セシコト也ナリ傳説
ニ據レハ往昔巴爾虎州内到處傳染病發生シ
テ家畜斃死シタルコトアリ土人ハ食料ニ窮シ
遂ニ魚ヲ食スルニ至リシニ此年暑氣強ク民間
ニ病起リ魚食者ニ多ク死者ヲ出セリ茲ニ於テ
喇嘛僧ハ之ヲ以テ畫像ノ怒トナシ之ヲ傳メ
カ為ノ右ノ西湖及烏爾順河ヲ佛ニ奉獻シ捕魚
ノ禁戒ヲ發シ右奉獻ノ微トシテ呼倫湖ノ東西
南北ニ四個ノ鄂博即チ小廟ヲ建立シ又烏爾順
河岸ニモ同様ノ鄂博ヲ作レリ其ノ後神宗皇帝

一

一七七二年ヨリノ時呼倫湖岸ノ一鄂博ハ廟ノ
維持費及祭資トシテ國庫ヨリ毎年七兩半ヲ下
附セラレ年一回祭典ヲ執行スルコトナレリ
又土人ハ巴爾虎地方ヲ呼倫貝爾ト改稱セシハ
西湖ノ奉獻ト同時ナリト傳フ斯クテ捕魚禁制
ノ發布後土人ハ固ク之ヲ遵奉セシカハ湖系ノ
魚族ハ益々繁殖スルニ至レリ
漁獵ニ最モ適スルハ春秋ノ二季トス蓋シ此季
ニ於テ魚族ハ常ニ烏爾順河ニ依リテ一湖ヨリ
一湖ニ移ルヲ常トス即チ產卵期ニハ通常貝爾

湖ヲ出テ一部ハ喀爾喀ニ上リ一部ハ烏爾順河
ニ依リ呼倫湖（同）テ産ニハ水（多ク）ニ至リテ産卵
シ秋季ニ到レハ大魚ハ貝爾湖（同）テ冬籠ハ水深（多ク）ニ
ニ歸リ去リ小魚ハ多ク呼倫湖ニ止リ其ノ深所
ニ集マル

後貝加爾人ハ古來之ニ垂涎シ春秋兩季ヲ窺ヒ
密漁ヲ行フヲ常トセリ之カ爲メ後貝加爾人ハ
巴爾虎人ノ怨ヲ買ヒ兩者ノ間ニハ時々紛擾ヲ
醸シタリキ漁法ハ頗ル簡ニシテ棒ノ一端ヲ尖
銳トナシ魚ヲ打ち又ハ突キ其ノ死シテ水面ニ

一二

浮キ上カルヲ待テ引上クルナリ
東清鐵道ノ敷設以來ハ鐵道附屬地内ノ居住者
中ニモ附近ノ河川湖沼ニ於テ密漁スルモノ愈
増加シ土人ハ常ニ露國當局者ニ對シテ禁漁方
ヲ哀願セシヲ以テ十九百三年東清鐵道長官ハ
命令ヲ發シテ一旦露國人ノ附屬地外ニ於ケル
漁獵ヲ禁セシカ何等ノ効驗ナク其ノ後モ土人
ノ哀願止マサリシヲ以テ鐵道長官ハ再度禁令
ヲ發シ且ツ密漁者ノ鐵道附屬地通行ヲ禁止セ
リ是ニ於テ後貝加爾哥薩克族ハ從來漁業ヲ以

テ生計ノ一助トナシ來レル事情ヲ具シテ漁業
ノ許可ヲ請願シ露國當局者モ亦之ニ耳ヲ傾ケテ
外務官吏ヲシテ清國ト交渉セシメ結果清國
齊々哈爾將軍ヨリ呼倫貝爾邊務大臣ニ對シテ
爾後禁漁地ニ於テ漁業ヲ許可スルコト及露國
人ニ一定ノ課税ヲ徵シテ漁業ヲ許スハ却テ地
方ノ利益ニシテ禁漁ニ對スル土人ノ信念ハ全
ク時世ニ適セサル迷信ナルコトヲ一般ニ布告
スヘク訓令スルニ至レリ
右ノ訓令ヲ發セシ後齊々哈爾將軍ハ更ニ民業

一三

開發ヲ名トシ此地方ニ漁業ヲ專業トスル清國
人ヲ移住セシムル旨ヲ通牒シ而シテ其ノ第一
著手トシテ烏爾順河岸ニ五百戸分ノ移民地ヲ
準備スヘキ命令ヲ發シタリ然ルニ此移民案ハ
喇嘛ヲ頭首ト仰シ地方民ノ反對ヲ招キ且ツ邊
務大臣モ亦之ニ加担セシカハ遂ニ實施セラル
ルニ至ラスシテ止ミシカ漁業ノ解禁ノミハ依
然繼續セラレ茲ニ旧慣打破セラレテ土人モ亦
之ヲ諒トスルニ至レリ次テ千九百六年清國政
府ハ露國人ノ同地方ヨリ搬出スル魚類ニ對シ

テ國稅賦課ノ法ヲ足ソ漁業ハ愈々適法ノモノ
タルヲトテ證明スルニ至レリ唯最近此地方ニ
起レル政變(巴爾虎ノ蜀)後漁業問題ノ再燃ヲ見
シカ獨立セル巴爾虎當局者ハ旧慣ノ恢復ヲ努
メス却テ收益上ノ見地ヨリ再ヒ露國人ニ漁業
ヲ認可シタリ之ニ對シテ支那政府ハ露國カ臨
時巴爾虎政府ト締結セル條約ノ違法ニシテ無
効ナルコトヲ通牒セリト雖モ本問題ノ現状ト
過去ノ由來トニ徴シ徒ニ利權回收ヲ計ル支那
當局者ノ宣言カ何等正當ノ理由ヲ有セサルコ

一四

ト明カナリ
呼倫湖及其ノ水系ニ産スル魚ハ鯉、竹、鯊、魚、鮒、紅
鰭、魚、タイソン、鯰等ニシテ就中鯉最モ多シ
春ニ至レハ上記西湖並ニ烏爾順河邊ニ雁、鴨、白
鳥等ノ群集シ來ルモノ幾萬十ルヲ知ラズ但シ
白鳥ハ專ラ貝爾湖ニ限ルカ如シ
魚族及水禽ニ次クモノヲ野禽及野獸トス然レ
トモ東清鐵道開通以來ハ多少僻遠ノ地ニ移レ
ル傾向アリ野生禽獸ノ最モ多キハ興安嶺山脈
中及西湖附近ノ曠原トス其ノ種類ハ鵲、鵲、鴉、兔、

黄羊、鹿、麋、猪、タルバカン、栗鼠、水獺、狐、鼬、獾、野猪、狼、
等ニシテ興安嶺中ニハ麋ヲ産ス

「タルバカン」ハ其ノ産出最モ多ク其ノ狩獵ハ近
年有望ノ事業トシテ露支蒙人ヲ通シテ盛ニ行
ハル然レトモ此野獸ニハ時トシテ鼠疫ニ犯サ
ルモノアリテ獵師ノ不注意ニ依リ往々人ニ
傳染スルコトアリ現ニ千九百十年ニハ此疫滿
洲全体ニ瀰蔓シ特ニ支那人間ニ猛烈ヲ極メタ
リ產地ハ海拉爾河、ムートン、イ、ポロト、ム、呼倫湖
及克魯倫河ヲ以テ劃セラル線以北ニシテ此線ノ

一五

南方ニハ該獸ノ棲息スルコトヲ聞カス
鑛産物ハ湖沼ヨリ産出スル曹達、塩、石炭、砂金等
ニシテ石炭ハ札賚諾爾驛附近ニ於テ東清鐵道用
トシテ發掘セラレ砂金ハ吉拉林河谷ニ産ス猶
ホ千九百年石炭脈ノ踏査ヲ行ヒタル際海拉爾
河谷ニ於テ銅及錫ヲ含有スル鑛石ヲ發見シタ
ルコトアリ

六、住民

住民ハ土著民族タル「ガリヤード」チ「パチン」額魯
特、索倫、ブロチヨシ、ブウール及最近ノ新來者タ

ル支那人ヨリ成ル
一、ガリヤー止族

此地方ノ「ガリヤー」止族ハ言語及宗教上ヨリ
見ルモ後貝加爾州ノ「ガリヤー」止族ト全ク同
種ニシテ初ノ喀爾喀ニ遊牧セシカチ七百三
十五年呼倫貝爾州内ノ西部ニ於テ現在ノ遊
牧地域ヲ占有スルニ至レリ其ノ數約一萬七
千遊牧ヲ業トシ喇嘛教ヲ奉ス

二、チパチ止族

「チパチ」止族ハ「ガリヤー」止族ト同族ナルカ「ブ

一六

リヤー」止ニ先ツコト數十年前喀爾喀ヨリ黒
龍江省ニ移住シ來レルモノニシテ初ノ齊々
哈爾濱ニ在リシカチ七百三十二年時ノ滿洲當
局者ノ命ニ依リ呼倫貝爾ニ一地ヲ與ヘラレ
海拉爾ノ北方地區ニ遊牧セリ其ノ數約五千
生業ハ遊牧ニシテ「ジャマン」教ヲ奉ス

三、額魯特族

額魯特族ハ西部蒙古ヨリ來レル種族ニシテ
露領ノ「カルムイク」族ト同族ナリ此種族ノ移
住セルハ千七百三十二年西部蒙古(該地方ニ呼

シテ當時準噶爾ト略爾喀トノ間ニ戦端ヲ
啓キシ時代ニシテ「チンヘ」山河ニ沿ヒ呼倫貝
爾ノ中央部ヲ占ム其ノ數約八百乃至九百生
業ハ遊牧ヲ業トシ喇嘛教ヲ奉ス

四、索倫族

索倫族ハ「トウング」族ニシテ千七百三十
二年滿洲官遷ノ命ヲ以テ興安嶺ノ東方布特
哈管内ヨリ呼倫貝爾ノ東部ニ移住シ來レリ
性質慍悍ニシテ幼時ヨリ狩獵ヲ事トシ最モ
射術ニ長ス其ノ數約八千遊牧ヲ業トシ「シヤ

一七

五、オロチヨシ族

「オロチヨシ」族ハ索倫ト同族ニシテ「シヤマシ
教ヲ奉ス其ノ異ナル点ハ全然狩獵ヲ以テ生
業トシ興安嶺ノ山林中ニ獸皮ヲ以テ覆ヘル
圓錐狀ノ幕舎ヲ設ケ轉々居ヲ定メス生活ス
ルニ在リ彼等ハ自ラ「ホシ」コ「ロ」族ト稱ス其ノ
數ハ清國官廳ニ於テモ取調ヘ不充分ナルヲ
以テ明カナラサレトモ大略二千内外ナルヘ

「オロチヨ」族ハ初ノ布特哈管内ニ屬シ千八百八十三年「ダイピン」ニ之ヲ統治ノ官廳ヲ設ケシカ該民族ハ居所ヲ定メス興安嶺山中ニ轉住シ其ノ管理困難ナリシカハ千八百九十四年該民族ヲ各副都統ニ分屬スルコトトセリ即チ興安嶺以東ノモノハ齊々哈爾濱、爾根、及布特哈ニ、又同嶺以西ノモノハ呼倫貝爾ニ所屬セシメタリ又「オロチヨ」族ヨリ廂藍ナル一旗ヲ起シ旗長ヲ同族中ヨリ選舉任命セリ此旗ハ二「ソ」モシニ分レ各「ソ」モシハ

一八

章京ニ依リテ管理セラレタリ

呼倫貝爾道名果（註宋小瀛）ハ千八百九十四年

實施ノ「オロチヨ」族管理法ニ關シ次ノ如キ意見ヲ記セリ

斯ノ如ク「オロチヨ」族ヲ數行政管區ニ分屬セシメタル所以ノモノハ彼等ヲシテ清國民タルコトヲ了解セシメシカ爲ソニ外ナラス蓋シ彼等ハ今日ニ至ル迄自己ノ清國ニ屬スルヤ否ヤヲ知ラス又實際以テ知ルニ由ナカリシナリサレハ今後ハ此觀念

ノ養成ニ努メテ効果ヲ擧ケタル官吏ニ對
シテハ以テ皇帝ニ奏上シテ賞與スルコト
トセリ

夫レ「オロチヨ」ニ族カ初メテ呼倫貝爾ニ屬
スルニ至リシハ千八百九十四年以降ノコ
トナレトモ其ノ住所一定セズ且ツ交通不
便ナル為メ戸籍法ノ實施不可能ナリ彼等
ハ概シテ額爾古訥河ノ右岸興安嶺中ノ交
通ナキ密林中ニ散在シテ狩獵ヲ業トシ其
ノ獲物ヲ携ヘテ額爾古訥河左岸露領ニ出

一九

テ必要品ト交換スルヲ常トシ斯クテ彼等
ハ露國人トノ關係多キ為メ遂ニ自ラ露國
ノ臣民タル觀念ヲ有スルニ至レリ
千九百八年(光緒三十四年)「オロチヨ」ニ族ノ人口、家
畜數及露國歸化者ノ數ノ調査旁、彼等ヲシ
テ清國ノ主權ヲ認メシメシカ爲メ特ニ官
吏ヲ派遣セシカ今當時ノ狀況ヲ記述セン
ニ該官吏ハ先ツ國境珠爾斯河所ヲ經テ
露領「ウシロフ」^(即チ「ウロフ」ニカセ)ニ到リ
「オロチヨ」ニ族ト貿易ヲ營ム一露國商人ニ

會見シテ其ノ説ヲ聞キシカ該露商ノ言ニ
據レハオロチヨシ族ハ浮浪的生活ヲナス
ヲ以テ其ノ居所ヲ知ルコトヲ得ス而シテ
該地方ノ雨期ハ例年陰曆七月ニ初リ徒歩
ト騎馬トヲ問ハス交通全ク杜絶スルヲ以
テオロチヨシ族ト露國人トノ貿易ハ一定
ノ時期一定ノ場所ニ於テ行ハル即チ毎年
十月下旬「ウシロフ」村ヲ距ルコト五百清
里ナル「ホケシヨウ」山ヨリ更ニ三百露
里ヲ隔テタル一ノ小屋ニ於テ行ハレ其ノ

二。

他ノ時期ニ於ケル彼等ノ居所ハ全ク知ルコ
トヲ得ス、又オロチヨシ族ノ半部ハ既ニ露
國ニ歸化シ、「イシヤギン」スキ「村役場」ノ
管理ニ屬ス、首長ハ額爾古訥河ノ下流チ
レコ「村」ニ住ス斯ク「オロチヨシ」族カ露國ニ
歸化スルニ至リシ原因ハ家畜斃死シ野獸
野禽ノ類モ減少シテ生活ニ困難ヲ感スル
ニ至リシト露領ニ入り洋服ヲ著シ露國人
ニ養ハレ露國語ヲ學ブヲ以テ利益ト考ヘ
タル結果ナリト云フ而シテ此言ハ其ノ後

他ノ露國ノ村役人或ハ國境居住ノ清國人
ニ就テ確メシニ何レモ上記露國商人ノ言
ヲ一層確ムルノミナリキ、是ニ於テ該官
吏ハ親シク「オロチヨシ」人ヲ尋ネンカ為メ
額爾古訥河口ニ向テ進發シ途中露國人ノ
道案内者ヲ備ヒ黑龍江支流ニ泊ヒ東南方
ヨリ興安嶺ニ入り森林中ヲ彷徨スルコト
百清里ニシテ漸ク三名ノ「オロチヨシ」人ニ
出會シタルカ何レモ露國風ノ服裝ヲナシ
蒙古人ノ如キ風貌ヲ有セリ彼等ハ初メ逃避ス

二一

ソトモシカ案内ノ露國人カ必ヲ呼ヒ止メ何
事ヲ語リ合ヘル後數清里ヲ隔テタル彼等
ノ住屋ニ赴ケリ住屋ハ種々ノ色合ノ毛氈
及樹枝ヲ以テ作レルモノニシテ其ノ外見
ハ蒙古人ノ幕舎ニ似タリ屋内ニハ婦女及
小兒ヲ見タルカ何レモ露國風ノ衣服ヲ纏
ヘリ此地ニ住スル「オロチヨシ」人ハ三戸男
女合セテ十五人ニシテ首長ハ露國人一名
「オロチヨシ」人一名ニシテ「オロチヨシ」人ハ
名ヲ「ゴエルダコ」ト呼ヒ目下露領ニ赴キ

不在ナルコトヲ知リタルモ彼等ノ姓名、人
員、及何時頃ヨリ此地ニ住スルヤ、又何時
頃露國ニ歸化セシヤ等ノ官吏ノ問ニ對シ
テハ悉ク知ラスト答ヘ唯不口此地ヲ去ル
ヘシト答ヘタリ由テ官吏ハ彼等ニ果物及
酒ヲ與ヘ清國ニ歸化スルコトヲ勸誘セル
モ彼等ハ何レモ其ノ意ヲ了解セサル如ク
裝ヘリ、夫ヨリ官吏ハ再ヒ露國ニ引キ返
シ露國ニ歸化セシ「オロチ」族ノ二村落
ヲナセルコト及其ノ戸數百七十戸以上ア

二二

ルコト並ニ彼等ハ辨髪ヲ去リ露國風ノ服
裝ヲナセトモ露國人ト同等ノ權利ヲ附與
セラレサルコト等ヲ知レリ

「オロチ」族ハ毎年六月一日迄ニ一人ニ
付五留宛露國ノ村役場ニ納付スル慣習ア
リ然レトモ此ノ納税ニ非スレテ生兒ノ露
國正教ニ入ル洗禮及葬式ニ對スル經費ナ
リト云フ
上記ノ如ク清國ノ境土ニ棲息スル「オロチ」
ヨシ族ノ妄リニ露國ニ歸化セントスル所

以ハ清國ノチロナヨシ族ニ對スル管理法
運シヤヲ得サルカ為シナリ故ニ此風ヲ除
カントセハ先ツチロナヨシ族ニ戸籍法ヲ
實施シ其ノ酋長等ニ官職ヲ與ヘ且ツ春秋
二期ニ官吏ヲ派遣シテ賞罰ヲ明カニシ勅
令ヲ傳達シ其ノ意味ヲ説明スルヲ要ス而
シテ猶ホ清國民タルコトヲ欲セサルモノ
アラハ其ノ數ヲ調査シ之ヲ外國人ト見做
シテ國境外ニ放逐スルヲ要ス云々
六、ウール族

二三

ウール族ハ千七百三十二年海拉爾城建設
ノ當時齊々哈爾附近ヨリ移住シ來リシモノ
ニシテ海拉爾城及其ノ附近ニ杜ル數村落ニ
定住シ農業ニ從事ス其ノ數約千人アリ
以上巴爾虎州ノ住民ハ其ノ數約三萬二千五百人
(計算ハハカレトモ)ニシテ一平方露里ノ人口密
度ハ〇・二二人ニ當ル

七、歴史ノ大要

第十七世紀ノ初葉迄ハ倫貝爾ノ地ニ遊牧セル
「トウングー」及「バリヤ」ト種ニ屬スル各民族

ハ外蒙古喀爾喀車臣汗ノ治下ニ貢獻セリ然レ
トモ喀爾喀ノ主權ハ餘リ確固タラサリシカ如
ク此等ノ民族ハ半獨立ノ地位ヲ保テリ
十七世紀ノ中葉ニ至リテ此地ハ露國及清國間
ノ爭點トナリ遂ニ衝突ヲ現ルニ至レリ蓋シ一
方露國ハ漸次其ノ勢力ヲ南下シテ此地方ノ土
民ニ貢獻ノ義務ヲ負ハシメ露國ノ民タラシメ
ントシタルニ及シ他方清國ハ太祖ノ軍功ニ依
リ附近ノ諸侯國ヲ合シテ極東ニ於ケル一大強
國トナリ益其ノ領土ノ擴張ヲ計レル必然ノ結

二四

果ナリトス

露國ノ都市建設史ヲ案スルニ千六百五十八年ニ
ハ「ネルチンスク」城砦、千六百五十二年ニハ「ハ
ハロフス」附近ニ於ケル「アギンスク」砦、千
六百五十三年ニハ「トウギルスク」砦、千六百
六十五年ニハ「ゴダインスク」(今ノ「ウイグル」)冬
營所建設セラレタリ而シテ當時ノ露國々境線
ハ嫩江ノ潮流タル雅兒河ニ達シタルモノノ如
シ又地方支那人間ノ傳說ニ依レハ十七世紀ノ
交ニ於ケル露國最南ノ城砦ハ齊々哈爾城ノ西

方約十露里ニアル露國丘上ニアリシト云フ
清國ノ諸記録ヲ涉獵スルニ十七世紀ノ中葉迄
北滿洲一帯ノ地方ニハ清國ノ城砦一モ存在セ
シ形跡ナク而シテ此方面ニ於テ第一ノ城砦ヲ
建テシハ十七世紀ノ末葉トス即チ千六百八十三年
露國勢力ノ南漸ニ對シ清國政府ハ副都統
「サバス」ヲ第一回ノ黑龍江將軍ニ任命シ一萬五
千ノ兵ヲ率テ寧古塔ヨリ水陸兩路ニ依リテ黑
龍江ニ向テ前進セシ翌年ヲ以テ璦琿ニ黑龍
城ヲ建設セリ黑龍江省ニ於ケル支那市街ノ建

二五

設ハ凡テ此以後ノコトニ係ル即チ墨爾根ハ千
六百八十四年始メテ建設セラレ同九十年ニ至
リテ黑龍江將軍衙門ノ所在地トナリ、奎即
チ齊々哈爾ハ千六百九十一年建設セラレ而シ
テ同九十八年ニ至リテ黑龍江省ノ首都トナレ
リ其ノ他海拉爾ハ千七百三十一年ニ至リテ建
設セラレタリ
以上兩國ノ都市建設ノ跡ニ徴スレハ十七世紀
ノ末迄清國カ呼倫貝爾ニ對シテ何等ノ野心ヲ
懷抱セサリシコト、並ニ此地方ニ於ケル露國ノ

勢カノ優勢ナリシ事實ヲ知ルヘシ而シテ清國
オ呼倫貝爾ヲ併セシハ外蒙喀爾喀ノ清國ニ合
併セラレシ後ニシテ實ニ千六百八十九年締結
セラレシ「ネルチンスク」條約ノ結果ナリトス
更ニ遼テ呼倫貝爾ノ所屬ニ關スル記録ヲ按スルニ千
六百七十年「ネルチンスク」若長「アルシンスキ」
ノ北京ニ特派セシ使節「ロワノコ」ノ記事ニ左
ノ如キ一節アリ
予ハ千六百七十年四月九日哥薩克兵若干ヲ
隨ヘ猶ホ貿易ノ爲メニ「ネルチンスク」ニ來レ

二六

ル三名ノ「ダウル」人ヲ伴ヒテ「ネルチンスク」
ヲ出發セリ
一行ハ騎馬ニテ行クコト七日ニシテ額爾古
訥河ニ達セリ此河谷迄ノ地ニハ露國皇帝ニ
貢獻スルトウングス族住スレトモ此河ヲ
渡リ根河ニ至ルニ日行程間ノ地區ニハ蒙古
王(無喀爾喀)ニ屬スル巴爾虎人遊牧シ又根河
ヨリ海拉爾河ニ至ル三日行程區間ニモ同シ
ク巴爾虎人遊牧セリ海拉爾河ヨリ半日行
程ニシテ札敦河ニ達シ夫レヨリ此河ニ沿ヒ

興安嶺(山岩)ニ連スル迄一日半ノ行程間ノ地區
ニハ清國ニ屬スルトルゴチ_(即チ)族ノ
臨時ニ居住セルヲ見受ケタリ、興安嶺ハ騎
馬又ハ車ニテ越ユルコトヲ得ヘシ云々
右ノ記録ニ依レハ當時額爾古納河ヨリ興安嶺
ニ至ル間ノ地區即チ巴爾虎ハ喀爾喀車臣汗領
ニ屬シ清國ニ屬セル_{カウ}一族ハ札敦河谷ヨ
リ興安嶺ニ至ル區間ニ一時居住セシモノナル
コトヲ知ルヲ得ヘシ
然ルニ其ノ後五年即チ千六百七十五年莫斯科

二七

ヨリ清國ニ派遣セラレシ譯官「スバフアリイ」ノ
旅行記ニ依ルニ_(彼ハ千六百七十五年十二月十九日「ネルケンス」ニシテ)
左ノ一節アリ_(後シ海拉爾ヲ經由シテ翌年一月十三日興安嶺ニ着タリ)

一月十三日「オリチ」河ニ沿ヒ行クコト十二露
里ニシテ山_(註興安嶺ヲ指ス)ニ達ス此山ハ實ニ露清
兩國ノ境界ナリ予ハ山上ニ於テ測ラスモ我
國ヨリ派遣セラレタル特使ノ一行ニ出會セ
リ而シテ一行中ニハ清國人アリシヲ以テ前
途ノ狀況ヲ知ルコトヲ得タリ、今ヤ吾人ハ
西伯利領内ノ旅行ヲ終リタルト共ニ「オリチ」

河ノ分水嶺カ清國領ノ「タルガ山」(興安嶺)ニ接スルコトヲ知り得タリ、想フニ我西伯利ノ領土ハ益々榮エテ地球ノ端ニ至ル迄我皇ノ光ニ浴ヘヘシ云々

以上兩記事ニ依リテ案スルニ千六百七十年ヨリ同七十六年ニ至ル間ニ於テ呼倫貝爾ノ主權ニ變動アリシコトヲ知ルニ足ルヘシ即テ前者「ミロワノフ」(ネルケンスク)ノ住民ニシテ特ニ選ハレテ清國ニ使シ「餘」ハ額爾古納河ヲ以テ露清兩國ノ境界トシ又後者「スバフアリイ」ハ呼倫貝爾ヲ以テ全然

二八

露領トナセリ、蓋シ此變化ハ千六百七十五年露國カ「ミハイル、チエルニゴフスキ」ヲ將トセ、ル遠征隊ヲ以テ「アルバジン」ヨリ根河方向ニ進入シ巴爾虎ニ於ケル遊牧民ヲ平定シテ露國ニ朝貢セシムルニ至リシ結果ナリ
斯クテ黑龍江方面ニ於ケル露國ノ行動ハ清國ト衝突ノ因ヲナシ千六百八十四年寧古塔ヨリ派遣セラレタル清國軍ハ「アルバジン」ヲ包圍シ同地ヲ守備セシ哥薩克三百名ヲ撃破シテ之ヲ占領シ爾來千六百八十九年「ネルチンスク」條約

ノ締結セラルル迄兩國間ノ戦乱止マス該條約
ノ成立ニ依リ平和克復シ其ノ結果巴爾虎ハ清
國領ニ歸シ露清兩國ノ國境ハ額爾古訥河ヲ以
テ定メラレタレトモ其ノ以後ニ於テモ呼倫貝
爾ノ所屬ハ猶ホ不明ノモノアリキ是レ蓋シ「不
ルチンスク」條約ノ規定ニ係ル境界ハ額爾古訥
河附近ニ於テハ明カナルモ其ノ上流部ヨリ「オ
ルゲルン」鄂博（註、露支國境連爾巴鄂達呼山ニ在リ其ノ位置
ニ問題ヲ起セルモノナリ）ニ至ル迄約八十露里ノ間ニ就テハ何
等規定スル所ナク從テ兩國人共自由ニ此地點

二九

ヨリ出入セシニ因ルナリ、然ルニ此境界ハ其
ノ後千七百二十七年「アリンスキ」及「恰克圖條
約」ヲ以テ連爾巴鄂達呼山ヨリ額爾古訥沿岸阿
巴海圖山ニ至ル線ヲ以テ兩國ノ境界トナスコ
トニ定メラレタリ
當時露國人等ハ「アリンスキ」條約ノ國境規定
ヲ不満トシ全權委員「ラクジンスキ」伯カ露國
ニ不利ニシテ清國ニ利益ナル劃定ヲナセルコ
トヲ非難シタリ蓋シ此地方ノ露國住民ハ此附
近ノ地理ニ通曉シ該條約ノ締結前呼倫貝爾ノ

全部カ露領ニ屬シ東ハ興安嶺南ハ車臣汗部ニ領
土ヲ接セルコトヲ熟知シ又其ノ後「ネルケンス」條
約ノ締結セラレシ結果巴爾虎ノ東部ハ清國ニ歸
シ額爾古訥河又札賴諾爾(呼倫海)ヲ以テ露國境得
トスルコトトナリタルモ札賴諾爾以南ハ古キ訖
記録ニ徴シ克魯倫河ヲ以テ境界ト認シラレ露國
ノ領土ハ「オルデル」鄂博ヨリ假設線ヲ以テ南方
克魯倫河岸ノ「ンゲン」山ニ至リ又ヨリ克魯倫
河流ニ沿ヒテ札賴諾爾ノ西岸線ニ至リ額爾古訥
河ノ旧上流即チ「ムート」又「ボトク」ニ依リテ包ム
三角地域ヲ抱擁シタリシコトヲ信セリ然リ而

三〇

シテ「ネルケンス」條約締結後「ブライ」ンスキ
條約ノ締結ニ至ル迄ニハ約四十年ノ歲月ヲ經
過セルヲ以テ露國人ハ此三角地域ヲ以テ全ク
自國ノ領土ト信シ居タルコトナレハ「ブライ」
ンスキ「條約」ニ依リ右ノ三角地域カ清國ノ版土
ニ歸セルニ對シ人民ノ悲憤攻撃セシコトハ又
故アリト云フヘキナリ
民間ノ非難攻撃ニ對シ條約締結ノ當事者ハ自
己ノ立場ヲ明ニセンカ爲メ大ニ辨明ニ努メ就
中委員ノ一人「ラング」ノ如キハ他ノ委員ト協力

シテ露國ノ讓歩セシ理由ヲ説明シタリ然レト
モ此等ノ説明ハ何等憑據トナルヘキ記録ヲ示
サス根據甚ク薄弱ナルモノナリキ想フニ當時
ノ劃定ニ當リ露國ノ讓歩セシハ單ニ國境ヲ直
線ナラシムルノ意ニ出テシニ外ナラサルカ如

シ
清國政府カ「ガリインスキ」條約ニ依テ得タル
上記三角地域ノ開拓ニ著手セルハ該條約締結
後五年ノ後ナリトス想フニ清國政府モ亦此地
方ヲ以テ確實ニ自國ノ領土ト思惟セサリシヤ

三一

ノ感アリ今試ニ十八世紀末ニ成リタル支那地
誌ニ據リテ黑龍江省ノ境界ヲ見ルニ左ノ如シ
境界南ハ五百餘里松花江ニ至リテ吉林省ニ
境ニ北ハ二千六百餘里興安嶺ニ至リテ露領
ニ、東ハ二千五百餘里「ヒシヤ」河ニ至リテ
吉林省ニ、西ハ四百餘里ニシテ喀爾喀ニ接
シ、東北黑龍江ヲ以テ八百里、西南呼倫河
ヲ以テ八百里、西北七百餘里ヲ以テ呼倫貝
爾ニ接ス云々
即チ呼倫貝爾ハ全ク黑龍江省ノ外ニ在リテ唯

齊々哈爾將軍ノ管下ニ特種ノ一州ヲナセシコ
トヲ知ルニ足ルヘシ
以下清國ノ記録ニ依リテ呼倫貝爾ノ由來ヲ記
述スヘシ

宣宗皇帝ノ道光十年十月二十八日即チ露曆千
八百三十二年(一八三〇年)額魯特族ハ族長以下
呼倫貝爾ニ來リテ清國ニ歸順ノ意ヲ表セリ額
魯特族ハ嘗テ西部蒙古(今準噶爾)ト稱セシモノ
酋長噶爾丹ノ配下ニ屬セシモノナルカ滿人及
喀爾喀族ニ逐ハレテ喀爾喀ノ北方ニ逃レタリ

三二

此民族ノ呼倫貝爾ニ來リシハ時恰モ巴爾虎ノ
地カ「ネルチンス」及「バリン」スキ山兩條約ニ
依リ全然清國領ノ版土ニ歸シ清國カ此等新領
土ノ經營ヲ企圖シツツアリシ時代ニシテ彼等
ハ游牧地トシテ伊犁敏河ノ朝流輝河々谷ヲ給セ
ラレ滿洲旗人ニ似タル制度ニ依リ特種ノ旗ニ
編成セラレタリ
同年又索倫ハカウール及「チ」族黒龍江省ヨ
リ巴爾虎ニ移住セリ
初「チ」族ハ齊々哈爾附近ニ住シ十七世

紀元ニ於テ清國ニ歸順セリ而シテ内一部ハ地
方官憲ノ勸誘ニ依リテ一地主者シ農業ニ従
事セシカ他ノ一部ハ従前ノ通り遊牧ヲ續ケ時
時掠奪ヲ行ヒテ土著ノ同族ヲ害ソタリ又齊々
哈爾附近ニ住セシ索倫族モ前者ト同様無頼ノ
徒ニシテ族長オルト共ニ十八世紀ノ初ニ於
テ清國ニ歸順セルモノナリ抑モ此等ノ民族ハ
慄悍殺伐到底齊々哈爾附近等ニ居住ヲ許スハ
キ人民ナラサルニ関ハラス清國ノ當局者ハ此
等新附ノ土民ヲ慰撫スルコトヲ重要ノ政策ト

三三

認メ殊ニ當時土民ノ露國ニ歸化スルモノ多カ
リシ關係ヨリ勉メテ之ニ特典ヲ與ヘ以テ同族
タルブリヤトウングースノ如キ大多數ヲ
以テ露國ニ歸化スル例ヲ學ハサラシメシコト
ヲ期セリ而シテ北京政府カ如何ニ此問題ヲ重
要視セシカハ露國ニ歸化セル土民ノ引渡方ニ
関シ露國ニ對シテ多年複雑ナル交渉ヲ繼續セ
シコトニ依リテ知ルヲ得ヘシ現ニ露國ニ歸化
セシ「ハンティムロフ」公引渡ニ関スル交渉問題
ノ如キハ千六百六十七年ヨリ二年間交渉ヲ繼

續セラレタリキ、蓋シ當時清國政府ノ此等土
民ニ對スル政策トシテハ巴爾虎及索倫族ヲ興
安嶺以西ノ新領土ニ移住セシムルヲ以テ尤モ
機宜ニ適シタル處置ト云フヘカリシナリ何ト
ナレハ呼倫貝爾地方ハ最モ放牧ニ便ナルト黑
龍江省内ノ土著民ハ之カ爲メニ慄悍ナル彼等
土民ノ害ヲ免レ得ヘク且ツ第三ニハ獐猛ナル
此等ノ土民ヲ以テ其ノ邊境防備ニ充ツルコト
ヲ得タルヘキヲ以テナリ
清國政府ハ又此新領土經營策トシテ呼倫貝爾

三四

ノ中央ニ一市街建設ノ議ヲ決シ索倫チフチン
ノ外更ニダウール族ヲモ此新市街ニ送ルヘキ
移民ノ數ニ加ヘタリ當時索倫及チフチン兩族
ニ對シテハ官命ヲ以テ家族家財ヲ擧ケテ移住
スルコトヲ命シタルモ「ダウール族ニ對シテハ
先ツ家主ノミニ限定シ愈々土地ノ耕作ニ適スル
ヲ確メタル後改メテ全家族ヲ移住ヲ命シタリ
(當時「ダウール族ハ既ニ土著ナリ」又此等ノ移民ヲ
シテ清國皇室ニ忠實ナラシメソカ爲メノ廣義ニ
於ケル自治ヲ許シ索倫ノ族長「オル止」ヲ邊務大

臣ニ任命シテ此等全移民ノ統治ニ任セシメ且ツ帝室牧場ヨリ牛馬ヲ分與シテ移民ヲ獎勵シタリ

邊務大臣「オル」上ハ千七百三十二年五月（雍正十三年正月）
黑龍江將軍「ツル」ハイニ對シテ呼倫貝爾最初ノ移
民情況ヲ報告セシカ該報告中ニハ次ノ如キ記
述アリ

海拉爾河ハ南西ニ流レ札拉木台河ハ北流シ
テ海拉爾河ニ合ス河口ハ地味佳良ニシテ莫
大ノ耕地ヲ得ヘク且ツ市街ノ建設ニ適ス水

三五

質民好牧場ニ富ミ到ル處ニ森林アリ獸類、魚、
 族亦豊富ナリ、北方ハ露國トノ境界ニシテ
 額爾古訥河西南ハ喀爾喀蒙古人ノ領土ナリ
 故ニ先ツ布特哈ニ官吏ヲ送り移民トシテ索
 倫人千六百三十六名、^{「カウ」}止人七百三十
 名、巴爾虎人^{「カグ」}二百六十五名、^{「オロク」}
 ヨン人三百五十九名ヲ選拔シ之ニ老幼ノ家
 族七百九十六名ヲ加算スルモ妨ナキヲ以テ
 充分保護ヲ加ヘテ移住地ニ至ラシメ之ヲ八
 旗ニ分チ内右翼部ニ移スヘキモノヲシテ新

バンタエヲ左翼ニ属セシノ翼長次級者(ハニ旗)
 ノ職ニハ次ノ八名(省人略)ヲ任用スヘシ而シテ
 何レモ黒龍江將軍ニ隷屬セシムヘシ、市街
 建設計畫ニ對スル蒙古人ノ言ヲ聞クニ札拉
 木台河邊ハ冬ノ到ルコト早シトノコトナル
 ヲ以テ「ダウ」ハ先ツ新開地ニ移リ一年
 又ハ二年間穀物ノ耕作宜シキヤ否ヤヲ驗シ
 タル上市街建設ノ儀ヲ出願スヘシ、新移住
 地ノ翼長ニハ馬十頭、乳牛十頭、羊八十頭ヲ給
 シ翼長次級者ニハ馬八頭、乳牛八頭、羊六十頭、
 章京ニハ馬、乳牛各七頭、羊四十頭、書記ニハ馬
 官ニ準シ三千名ノ兵士ヨリ馬五頭、牛三頭、羊
 三十頭ヲ各人ニ提供スヘク而シテ書記ハ之
 ヲ衛リテ之ヲ繁殖シ家産ヲ作ルハキナリ而
 シテ此等ノ馬ハ齊々哈爾ノ官有牧場ヨリ下
 賜スルコトトスヘシ、又牧畜ノ景況ハ其ノ
 結果ヲ年々一定シ難キヲ以テ半給與ヲ受ク
 ル官吏及兵士ニハ毎月現金及糧食ノ給與ヲ
 毎年装具料トシテ補助スルヲ要ス、他旗兵
 ノ例ニ倣ヒ陸軍部ニ請ヒ至急各隊ニ軍旗及記

三七

號ヲ乞ヒ各兵士ニ對シテハ方劍各一及鐵鏃
ヲ有スル小形ノ矢三十本野獸獵用大形ノ矢
十本ゴマチヤン(戰爭用及熊狩ニ)五本宛ヲ支給シ
タバハ及ブリブシエニ兵士ノ訓練ヲ委
任シ徒歩又ハ馬上弓ヲ射ルコト及槍術ハ銃
射撃ヲ教練シ兵士ノ勞働ヲ獎勵シ法規ヲ説
明シ公義ノ念ヲ養成シ又現在移民スヘキ土
地ハ露國ト境ヲ接スルカ故ニ兵士ノ移住ヲ
終リタル上ハ國境哨兵所ヲ設置スルヲ要ス
而シテ其ノ數並ニ位置ハ實地調査ノ上ニテ

三八

定ムヘシ云々
索倫ヲフナシ兩族呼倫貝爾ニ移住シテ後三年
ヲ經テ(即チ千七百)新移住民タル蒙古「ブリヤ」
上族ハ喀爾喀ヨリ來住セリ此族ハ喀爾喀ノ遊
牧民ニシテ現時ノ「サンベ」王ノ領内ニ在テ
ハ「ソモン」ヲナセリ、蒙古ノ訃録ニ依レハ當時
此地方ヲ統治セシ「章京」多爾濟王ハ此族ニ對シ
一般喀爾喀人ニ比シ一層過酷ナル稅ヲ課シ其
ノ負擔ヲ重イラシメタリ、蓋シ此蒙古「ブリヤ」
上族ハ喀爾喀人ト其ノ種族ヲ異ニシ且ツ「シ

ヤマシ教ヲ奉^ル為^ルノ自然喀爾喀人ノ蔑視ヲ
受ケ為^ルニ喀爾喀ニ住ムコトヲ潔シトセズ遂
ニ千七百三十五年(雍正十三年)ヲ以テ族長「ヤクト」
以下呼倫貝爾ニ移住シ來レルナリ
蒙古「アリヤ」トノ移住ト共ニ「ソモ」ノ長タル
章京等モ移住シ來レリ巴爾虎ノ記録ニ依レハ
此等ノ族長ハ凡テ喀爾喀人ニシテ台吉(部族長)
タリシト云フ而シテ呼倫貝爾ニ移レル台吉ハ
次ノ十二名(姓名)ニシテ初メ章京及其ノ他ノ職
ヲ世襲的ニ羸テ得タリシモ後ニハ其ノ子孫間

三九

ニハ「シヤス」ツァンギジノ稱ノミ殘レリ
以上訛セル移民ニ依リテ呼倫貝爾ニ行政的區
分ヲ見ルニ至レリ即チ額魯特、索倫、「チ」チ
ンノ諸族ハ千七百三十二年滿洲政府ノ主權ヲ
認メテ旧巴爾虎ヲサシキ七百三十五年移住セ
シ蒙古「アリヤ」トノ族ハ新巴爾虎ヲナスニ至レ

行政組織

巴爾虎カ特殊ノ行政組織ヲ有スルコトハ上述
ノ如ク世宗帝ノ時定メラレシカ高宗帝ノ乾隆

五十七年(明治三十三年)ニ至リ巴爾虎ノ權利ハ愈々確
認セラレ其ノ制度延テ今日ニ及ヘリ原來巴爾
虎人ハ凡テ露國ノ哥薩克ニ似タル兵族ニシテ
政府ヨリ兵器及給養ヲ度ケ街上勤務ヲ以テ國
家ニ奉公セリ
巴爾虎ハ自治權ヲ有シ從テ凡テノ官吏ハ巴爾
虎族中ヨリ選任セラレタリ唯全巴爾虎ノ統治
者タル邊務大臣ノミハ支那人、或ハ
滿洲人ヲ以テ任スルヲ例トセリ
全巴爾虎ノ地ハ之ヲ十七旗ニ分テリ

四〇

旧巴爾虎ノ額魯特族ハ獨立ノ一旗ヲナシ翼長
ヲ戴ケリ、索倫及フチン族ハ八旗ニ分タレ
タリ内ニ旗ハ「フチン」六旗ハ索倫ナリ此八旗
ハ之ヲ左右ノ兩翼ニ分チ各翼四旗ヨリ成ル兩
翼共各一人ノ翼長ヲ戴ケリ新巴爾虎モ亦同
様ノ組織ニシテ八旗ニ分ケ更ニ之ヲ兩翼トシ
翼ニハ翼長アリ即チ全巴爾虎ニハ統治者タル
翼長合計五人アリ即チ額魯特族ニ一人、新旧
巴爾虎ニ各二人、之レナリ而シテ新巴爾虎ノ各
翼長ハ蒙古「フチン」ヤリ止族ノ四旗ヲ管シ、旧巴

爾虎ノ翼長中一人ハ「チ」バチンニ旗ト索倫ニ旗
トヲ管シ他ノ一人ハ索倫四旗ヲ管轄ス
各旗ハ其ノ軍旗ノ色ニ依リテ名稱ヲ異ニス即
チ八旗ハ黃紅白藍ノ四色ヲ用ヒ最初ノ四旗ハ
單色トシ他ノ四旗ハ之ニ縁ヲ附シテ區別セリ
八旗ノ名稱次ノ如シ

「フリ、シヤラ」 正黃 黃色無地
「フリ、ウラン」 正紅 紅色無地
「フリ、ツアガン」 正白 白色無地

四一

「フリ、フーコ」 正藍 藍色無地
「フボト、シヤラ」 廂黃 緣付黃色
「クウオト、シヤラ」 廂紅 緣付紅色
「フボト、ウラン」 廂白 緣付白色
「クウオト、ツアガン」 廂藍 緣付藍色

「フボト、フーコ」 廂黃 緣付黃色
「クウオト、フーコ」 廂紅 緣付紅色

新旧巴爾虎ノ區分次ノ如シ

各旗ノ管理上翼長ノ輔佐トシテ翼長次級者ナ
 ル職ヲ設ク「イリヒダハニ旗即ケ六「ソモ」ニ管

新 巴 爾 虎					
左 翼			右 翼		
蒙古ブリアート			蒙古ブリアート		
正 白 旗	廂 黃 旗	正 藍 旗	廂 白 旗	廂 藍 旗	正 紅 旗
正 黃 旗	正 紅 旗	正 藍 旗	正 紅 旗	正 藍 旗	正 白 旗

四二

舊 巴 爾 虎					
左 翼			右 翼		
索倫			チフチン	索倫	
廂 藍 旗	廂 紅 旗	正 紅 旗	正 黃 旗	正 藍 旗	正 白 旗
正 黃 旗	正 紅 旗	正 藍 旗	正 紅 旗	正 藍 旗	正 白 旗

區 分
 翼 名
 種 族
 旗 名

理スルモノニシテ戰時ニ在テハ恰モ六中隊編
 成ノ騎兵聯隊長トモ謂フヘキモノナリ但シ額
 魯特旗ニハ此職ヲ置カス
 翼長次級者ノ管區次ノ如シ

舊巴爾虎	區分	所屬旗名
第一「イリヒダ」管區	第一「イリヒダ」管區	正黃旗 正紅旗
第二「イリヒダ」管區	第二「イリヒダ」管區	廂紅旗 廂藍旗
第三「イリヒダ」管區	第三「イリヒダ」管區	廂黃旗 正白旗
第四「イリヒダ」管區	第四「イリヒダ」管區	廂白旗 正藍旗

四三

新巴爾虎	所屬旗名
第一「イリヒダ」管區	廂黃旗 正白旗
第二「イリヒダ」管區	廂白旗 正藍旗
第三「イリヒダ」管區	正黃旗 正紅旗
第四「イリヒダ」管區	廂紅旗 廂藍旗

各旗ノ遊牧區域ハ各翼長次級者管區即チ二旗
 毎ニ定メタリ即チ
 旧巴爾虎ニ在テハ（「ゴル」ルハ「河」ラハ山）
 廂黃旗、正白旗、東ハ扎敦河、西ハ伊敏河、北ハ海拉爾河、
 廂白旗、正藍旗、東ハ庫勒都爾河、西ハシリヤル谷、南ハ「イ
 正黃旗、正紅旗、東ハ「イ」ル河ニ至ル
 北ハ「シ」ウエ、ウーラニ至ル

東ハチノイ谷、西ハフイゴール、南ハ坪
敏河ノ上流、北ハハラタウーニニ至ル
東ハクタクチヨール峠、西ハハラフシルノール、
南ハヒリユーニ山、北ハ輝河ニ至ル

東ハグンノル西ハ烏爾順河、南ハ喀爾喀、北ハ扎賴諾爾ニ至ル

東ハ「ゴンタイ」森林、西ハ「賴諾爾」南ハ「グンノール」、北ハ「グンボノール」ニ至ル

東ハライゴール、西ハアムズハンバルドゥル
湖、南ハハインドレイト河、北ハグシノーヒ至

東ハ熱河、順河、西ハシヤウオルダ、ブラク、南
「ボクドール」エ、北ハ「シルサンウー」ヲニ至ル
東ハ島爾順河、西ハ喀爾喀、南ハ貝爾湖
北ハ克魯倫河ニ至ル

東ハ島爾順河、西ハ喀爾喀、南ハ貝爾湖
北ハ克魯倫河ニ至ル

ハニソモニニ分ル故ニ巴爾虎十七旗ハ合計五

為スト共ニ軍隊編成上ノ單位ヲナス平時各

モ
シ
ニ
ハ
騎卒四十
九、青龍一、
下士シニ四、士官ハナリ一合計

五十五名アリ而シテソモシノ指揮官ハ
章原ナ

リ而シテ有事ノ際一ソモシノ兵力ハ二百騎ニ

増加スト雖其ノ幹部ハ平時ト異ナルコトナシ

又章京及土官ハ平時ソモニ大ノ行政警察並ニ
ニ服シ其ノ權能ハソモニ於ケル一般人民ニ

ニ服シ其ノ權能ハソモニニ於ケル一般人民ニ

及フ各旗共三名ノ章^{ツンザン}京アリ皆官^{ツンザン}綴ヲ帶フ内一名ヲ以テ高級者トス、高級及次級ノ章^{ツンザン}京ハ直接地方長官ト交渉スル權能アレトモ最下級ノ章^{ツンザン}京ハ其ノ高級者ト經サルヘカラス

徵兵年齡ハ十八歳ニシテ四十歳ニ至レハ免彼トナル毎年四月及九月ノ兩度ソモソノ戸籍簿ヲ檢査シ適齡者ヲ地方官衙ニ集メ身體檢査ヲ行ヒ不具者ヲ兵籍ヨリ除キ健康者ハ動作及方術ノ試験ヲ行ヒタル後之ヲソモソノ兵籍ニ編入シ除隊死亡、病者、不具者ノ生シタル場合補缺

四五

トシテ入隊セシム又此等平時編成名簿ノ外戰時編成名簿ヲ編成シ戰時定員ニ超過スル人員ヲ以テ步兵隊ヲ編成ス而シテ騎兵ノ兵彼勤務ハ千九百年迄ハ次ノ如ク實施セラレタリ

ヲ受ク

- 一、軍旗下ノ勤務但シ毎年海拉爾ニ至リ檢閱
 - 二、露蒙境用上ノ護境勤務
 - 三、巴爾虎州内ノ驛遞勤務
 - 四、警察勤務
- 海拉爾ニ於ケル檢閱ハ北清事變後廢セラレシ

カチ九百十二年呼倫貝爾獨立後再興セラレ
タリ

軍旗下ニ於テ兵役ニ従事スル士官及騎兵ノ
数ハ總計二千八百三十七人ニシテ其ノ編成
次ノ如シ

翼長^{ウグルダ} 五
翼長次^{イヒリダ} 八

此等官吏ニ附屬スル傳令使

章^{ツァンギン} 五
官^{ホーワン} 五

書記^{ウイリヤン} 五
下士^{ボジ} 二

騎兵^{キヒン} 二
合計 二、八三七

九 國境監視

露國及喀爾喀トノ境界監視ノ為メ巴爾虎ヨリ
配置スル哨兵所ハ露國トノ境上ニ十二個所ア
リ内六個所ハ新巴爾虎ヨリ、他ノ六個所ハ旧
巴爾虎ヨリ配置ス
新巴爾虎ヨリ出ス哨兵所ハ次ノ如シ

旧巴爾虎ヨリ出ス哨兵所ハ次ノ如シ

- 一、ツアガン、ウーラ (滿洲里驛ノ附近ニシテ)
 - 二、蘇古特 (滿洲里ノ西方ニ在リ)
 - 三、阿巴噶圖 (露國哨兵所「アバカイトウ」ト相對ス)
 - 四、孟克錫里 (露國「バイラス」ト相對ス)
 - 五、額爾得尼托羅輝 (「バイラス」ト對ス)
 - 六、フフダバン (露國旧「ツルハイトウ」ト相對ス)
- 新巴爾虎トノ境ニ在ル哨兵所次ノ如シ
- 一、錫喇達 (即チ「チエルケ」ハロル)
 - 二、克勒木圖泊
 - 三、西伯爾圖
- 一、バトウル、ホシエ (露國新「ツルハイトウ」ト相對ス)
 - 二、巴雅斯胡朗圖溫都爾 (露國新「ツルハイトウ」ノ北方)
 - 三、ウイリクシ (「ブ」ト河)
 - 四、バインツルヘ (露國新「ツルハイトウ」ト相對ス)
 - 五、西伯勒布拉克 (露國「ボルドウル」ト相對ス)
 - 六、ツルテ (露國「ボルドウル」ト相對ス)

四、哈布布圖
 五、阿拉勒圖
 六、札拉山
 七、布勒克圖
 八、胡爾海圖
 九、哈爾沙圖
 十、按陳圖
 十一、阿魯布列克
 十二、莫端哈沙圖
 十三、札木都克

出、ブラックデルム（貝爾湖附近）

四八

旧巴爾虎ヨリ出ス哨兵ハ貝爾湖ヨリ東方索岳
 爾書山ニ至ル境界線ニシテ同山ニハ哨兵ヲ置
 カス是レ此附近通行者稀ナルト住民最モ少ナ
 キニ因ル此山ハ最モ要害ノ地ニシテ巴爾虎布
 特哈哲里木盟ニ属スル札薩克圖及圖什業圖兩
 旗、錫林郭勒盟ノ東烏珠穆沁及喀爾喀ノ「ツア
 ヘイ」貝子等ノ六行政區ニ接ス之カ為以上ノ各
 州旗ヨリ此山ニ鄂博ヲ建テ每春盛大ナル祭典
 ヲ行フ

貝爾湖ト索岳爾湖山間旧巴爾虎ノ哨兵所ハ
次ノ五個所ニ在リ

一、ウラン哨兵（貝爾湖附近ニ在リ）

二、ウンドウルブラク哨兵

三、シリシ、フドウク哨兵

四、ノムン、ハン哨兵

五、アラブラク哨兵

各哨兵所ノ兵數ハ五名乃至六名ニシテ二、三ノ
哨所毎ニ之ヲ監督スル札蘭ナル職アリ、其
ノ下ニ輔佐トシテ下士アリ、重要ナル哨所

ニハ士官ヲ置キ僻陬ノ哨所ニハ下士ヲ
置キテ長トナス

十、驛遞法

巴爾虎州内ニハ信書傳達ノ為ノ郵便道ニアリ
一ハ海拉爾ヨリ齊々哈爾ニ至ルモノ、一ハ海
拉爾ヨリ庫倫ニ至ルモノ、又ナリ
齊々哈爾道上ニハ哈克、札勒、木哈、和碩、
牙克什、免渡河、呼爾各特、伊里克特等ノ驛
台アリ然レトモ千九百年北清事變以後ハ此驛